



Title	一本の帯状（リボン状）の素材を用いた造形の研究
Author(s)	金, 相熙
Citation	デザイン理論. 2008, 53, p. 118-119
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53426
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

一本の帯状（リボン状）の素材を用いた造形の研究

金 相熙／京都工芸繊維大学院博士後期課程

リボン状の素材の造形について

何かを縛ったり結んだりする用度を持った帯・ベルト・リボンのようなもののデザインは一般的によく見られる。しかし、この造形研究は、リボンの一般用度と離れた概念から生まれる新たな使い方によって今までにない造形を提案することを目的とする。

この研究に取り組んだ背景、問題意識

今回の作品制作はキリスト教的世界観とヨーロッパの絵画・彫刻などの作品に見られる造形との関連性の研究がベースとなっている。

初代教会（30年頃～4世紀初キリスト教がローマの国教として認められるまでに形成されたキリスト教の総体的な名称）の誕生以降、聖画・建築・彫刻などの美術では、絶えずイエスや聖書に記された人物が表現の対象となってきた。近代以降の美術では、キリスト教的表現から個人を主体とする新たな表現の模索が始まり、20世紀に入って美術の近代化が急速に進んでいる。思想的な混沌状態に陥っている現代、そして現代美術は、真理の唯一性と絶対性を否定したことによって生じる喪失感と戦っているように思える。すなわち、真理の相対性と不確実性のなかで、表現を模索していると感じる。

聖書は「救い」「永遠」「世の中の流れ」に対する全てを明白に提示している。

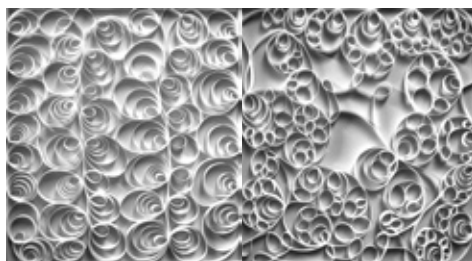
このような世界観にもとづいて西洋美術の根底に流れている見方とともに、新たな聖書的な接近を求めたパターンの作成を試みた。

作品で表現しようとしていること

我々の日常生活の中では糸や布、革などの素材で作られた「帯・紐」が様々な形で使われている。だが、本作品はそういった具体的な用途とは離れ、人間の「生」に関する思考内部で浮かび上がってくる「始めと終わり」「一生」「道」「永遠」「人間関係」「ひとつ」「宇宙」というような心象をキリスト教的視点から捉え直し、それを一本の帯状（リボン状）の素材を用いて全てが関係性の中にあることを表現したものである。人の手が加わっていないものの存在と人間が「どこから来て、なぜ生きて、どこにいくのか」のような究極的な存在認識に向いかけている。

手 法

その基本となるパターンは次のようなものである。



素材として選んだリボン状のものは「始め」と「終わり」のないようにつながっている。そしてそのリボン状のものを巻き、はめ込むという構造になっているこのリボンを解くとメビウスの帯のように何回もねじられているのである。ペンで線をひいていくような感じでリボンを巻きはめ込んでいくといくらでもパターンができあがるのである。一つの

点で曲線が集まり、見る方向によって線から面に、面から線に変わるようなパターンの変化の面白さを感じられる。そして、面積のある素材であるためその面のところに物語を想起させるような表現を用いることもできるのである。

パーティション「平安の森」

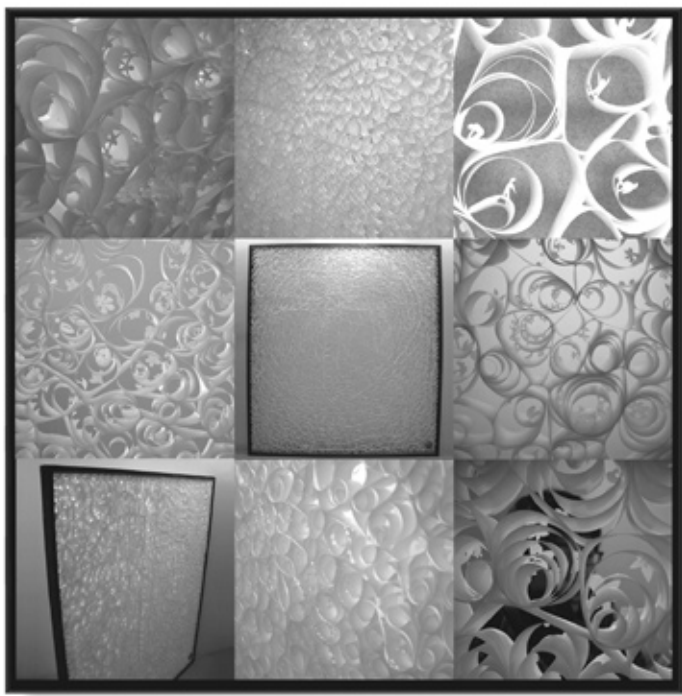
本制作物は「2008京都工芸ビエンナーレ」の招待作家として出品するため制作した作品である。約300メートルのポリプロピレン障子紙で作られた。この素材が決まるまで2ヶ月ほどの準備期間があった。ポリプロピレン障子紙はしわがなりにくく、花や人物の形を細かく切るのにとりにくい。さらにプラスチックコーティングされているため汚れにくく、プラスチックより軽い素材であった。そして、巻いてはめ込んだところが一番安定し、ぐるぐる巻いた形がきれいにできあがったのであ

る。この素材でパターンが完成された後に新たに発見した面白さは、見る方向によって作品自体の陰影が移り変わることである。それによって照明により作品の色の変化が現れたのである。

世の中の我々人間が「愛」「信仰」「奉仕」の心を守って「平安」「天国」を味わいながら生きてほしいという願いを込めた作品であると言える。その中には、一つ一つ意味を込めて掘り出した人物や花、そして人たちが手をつないで作っていくハートの様子などの多くの表現がされているが、全般的に統一感を感じられる。

現在は、基本パターンだけで機能を持ったデザインを試みている。

パターンの形が崩れないよう、リボンを巻いてできた空間やリボンの幅そして素材や接着の調節などの研究を行い、今後は照明器具などの立体物への展開も進めている。



H160×W140 / ポリプロピレン障子紙



空間への展開



照明器具への展開